2021年度　秋の大運動まとめ（保育）

2022年2月22(火)

2021年度　秋の大運動事務局体制
実行委員長－茨木（社会福祉経営者同友会　会長）・大阪保育運動連絡会―芳村・北谷
・大阪学童保育連絡協議会―柴田・香田・社会福祉経営者同友会―五藤・古川
・全国福祉保育労働組合大阪地方本部―藤原・大阪自治体労働組合保育所支部―今井

1、実行委員会について

大阪保育運動連絡会、大阪学童保育連絡協議会が毎月行っているそれぞれの運営委員会において秋の大運動を推進していきました。最初の会議において目標について議論しました。コロナ禍が続く中、署名を集めることが困難な状況ではあるが目標を定め、その目標に向かって活動をしていくことに意義があること、その目安として各自治体人口の8割をしてはどうかということを話し合いました。その提起を受けて各市でも目標について議論し、目標をもってとりくみを進めていったと思います。また、１１月の実行委員は拡大合同実行委員会とし学童保育と一緒に保育情勢を学び保育は吹田、枚方、堺、学童は守口、寝屋川の取り組みを交流しました。

12月と1月はブレイクアウトルームでグループに分かれて交流を行いました。12月は国が公定価格について議論していることから、私たちも公定価格の仕組みについて学び、改善提案ができるよう「まるわかりパンフ」を作るための学習と意見交換を行いました。１月は議員懇談を進めるために、国の指導監査緩和について、900円の処遇改善についてどんな議論をしているのかなど交流しました。（10月～12月の学習内容は以下参照）

10月　ミニ学習会「2022年度概算要求と秋の大運動」～概算要求の内容について～　杉山先生（大阪保育研究）
11月　ミニ学習会「保育情勢と議員懇談」　実方さん（全国保育団体連絡会）
12月　ミニ学習会「公定価格と給与改善、保育環境改善について」岩狭さん（大阪保育運動連絡会副会長）

2、スタート集会について

9月19日（日）に行いました。当初、エル大阪の大会議室とリモートの併用を予定していました。今年はみんなで集まって話を聞きたいと考えていましたが、多くの人がコロナの影響でリモート参加であることから会場参加の規模を縮小し大阪保育運動センターに変更しました。最初に地域・団体からの報告は大阪自治労連保育部会と大阪保育運動連絡会が共同でコロナ緊急要望書を大阪府に提出し、記者会会見をした報告、寝屋川の学童保育指導員よりコロナ禍でのオンライン学習の実態と検査について報告がされました。

講演は奈良女子大の中山徹先生にお願いしました。中山先生は「改めて公立保育所、公立学童保育の重要性を考える」と題して公立保育所・学童保育の重要性、直面する課題、保育における2025年問題、2025年問題にどう対応すべきかという柱で、コロナで10年程度早く進む少子化に対して、保育関係者がどのような政策をもち、運動をすすめるかについてお話してくださいました。「身近に迫ってきた少子化の現実を捉え、それを逆手に取り「最低基準の改善」要求を高めていく事で、今の課題となっている様々な事柄が大きく変わっていくことが見えてきました。今後の運動のキーワードになると思います。」などという感想が寄せられ、私たちがすすめる運動の指針となる内容でした。視聴数が準備していた回線を上回り急遽、アカウントをとるなどの対応し全体で550回線の参加がありました。視聴者は600人を超えていたことが予想されます。リモート参加の利点を生かし保護者に聞いてもらうことを今後も追及したいと思います。

3、キャラバンについて（10月14日～11月24日）

コロナ禍の中ではありましたが、守口市・松原市の2市以外は懇談に応じてくれました。（大阪市は2022年3月17日実施予定）今回は新型コロナウィルス感染についてワクチン接種、検査体制、市独自の慰労金、代替保

育の実施についてなどを中心に懇談しました。ワクチン接種については多くのところで保育者の優先接種がされており、在勤接種も進んでいる状況でした。しかしほとんど進んでいないのが定期的な検査と慰労金の支給でした。寝屋川が７月～10 月の期間２週間に１回ＰＣＲ検査を行う。富田林がモニタリング事業で 10 月中２週間に１回ＰＣＲを行う、それ以外には抗原キットを配布するという状況。慰労金については河内長野は保育所職員に 2500 円のプレミアチケット、堺市が２万円のクオカード、寝屋川市が３万円、四条畷市が５万円、大東市が応援支給金を至急するという状況でした。また、保育施設の休園に伴う代替保育については市独自では難しいとして、一向にすすんでいない状況が明確になりました。大阪府内で７月～９月まで約 600 か所以上の休園があったこともわかりました。このような状況を全国行動（12 月 16 日）の際、厚労省に伝え、国の改善を訴えました。

4、全国行動について（2021 年 12 月 16 日）

12 月 16 日、全国の保育関係者約 60 人が参議院会館で集会を行いました。初めに国の保育情勢を学んだ後、グループに分かれて議員要請、省庁懇談を行いました。事前に懇談の申し入れをしていたこともあり、れいわ新選組の大石議員と直接懇談することができ、紹介議員にもなってくださいました。
コロナが落ち着いていた時期でもあり大阪から 13 人参加できました。「このような地道な運動が施策改善への一歩になるということを改めて実感できた国会要請行動だった」という感想が参加者から寄せられました。どんな時でも私たちの願いを議員や省庁に届ける活動を続ける必要性を実感した全国行動でした。　（実行委員会ニュース参照）

5、宣伝行動について

昨年と同様、今年も大阪一斉宣伝行動を行いました。昨年は５ブロック９か所、276 人で行いましたが、今年はさらに広がり 12 カ所、378 人で行動し 2470 筆集めました。どの場所でも「場頑張ってね」と声がかかったり、カンパをしてくれる人もおり、「やっぱりやってよかった」という活動になりました。多くの場所で参加者も多く、人通りもあったので盛大に宣伝をすることができました。毎年、宣伝行動する地域、場所については相談して、参加したみんなが元気になるよう、とりくんでいきたいと思います。（実行委員会ニュース参照）

６、議員懇談

コロナ禍で保育を継続する困難さ、基準改善の必要性、保育士の処遇改善などについて国会議員、府会議員、市会議員に伝える活動として議員懇談は大事なとりくみです。秋の大運動実行委員会として地元の議員と懇談することを提起しました。それを受けて八尾市・大阪市西淀川区が府会議員、市会議員との懇談を行いました。また１２月 16 日の全国行動を前に大阪選出の国会議員に懇談の申し入れを行い、その要請にはれいわ新選組、日本共産党の議員が応じてくれました。府会議員団にも懇談の申し入れを行い、維新の会と日本共産党が懇談に応じてくれ、公明党には断られ、自民党は調整できずという状況です。夏に参議院選挙もあることから引き続き、保育の現状と要望を訴える活動は続けていきたいと思います。

最後に

コロナ禍のなかでの秋の大運動でしたが、オンラインを活用しコロナ感染対策をとりながら例年の活動を進めてきました。大阪府へ２月 25 日に　　筆の署名を提出する予定です。

秋の大運動は保育・学童保育関係者が国や自治体の保育情勢を学び交流し「子どもたちのために国や自治体に声を届けよう」ととりくむ活動です。コロナ禍でも各地域で工夫しこの活動を継続させています。しかし活動が縮小している地域もあることから、一つ一つの地域の状況を把握し、大阪実行員会として援助することが求められていると思います。来年度はどのような状況になっているのかわかりませんが、今年度の活動を生かし引き続きみんなで力を合わせ活動していきたいと思います。